

日吉台地下壕保存の会会報
第88号
日吉台地下壕保存の会

2008年度総会開催される

総会報告

日吉台地下壕保存の会の総会は、20年間5月か6月の土曜日に開かれています。10数年間は、様々な工夫をしてみても、運営委員とあと数人が出席するだけの、寂しいものでした。見学会と組み合わせても、講演会と組み合わせても、それが終わると汐が引くようにいなくなり、総会まで残ってくれる方はほとんどいませんでした。ところが5、6年前から、総会が賑やかになってきました。

今年は、1時30分から3時までの、土方貞彦氏の記念講演「大和特攻に関連して」には60人の参加者があり、慶應出身の連合艦隊司令部通信将校だった氏の話に耳を傾けました。予科2年途中で海軍予備学生を志願し、昭和20年1月から8月までを、海軍少尉として日吉の連合艦隊地下壕で任務にあたった経験を持つ数少ないひとりです。その日たまたま当直であったために、戦艦大和の最期に立ち会うことになりましたが、氏の役割は、地下の通信室で待機し、通信士が書き取った書類をうけとり、寄宿舎に続く百数十段の階段を駆け上がり、中寮作戦室の参謀に取り次ぎを介して渡すことでした。



講演会



講師 土方貞彦氏

刻々と入る大和からの通信にしても、最後のものは2時過ぎであり、15度傾いていることが書かれていた、という記憶はあるものの、その時はなにも特別な感慨はなく、多忙な日々の仕事の一環であった、と語りました。大和に関しては後年、様々な人間模様が明らかになり、書物にも映画にも数限りなく取り上げられるせいで、ともすれば当時の司令部内でも、劇的な出来事があったのではないかと期待しますが、どうもそうではなかったようです。

後半に会員の栗原啓二氏が加わって、共に質問を受けてくれました。栗原氏は昭和20年3月まで連合艦隊司令部の暗号士として、地下壕内で任務に就いていたのです。あの壕内

でそれ違ったこともあったでしょうが、自分の任務以外のことは、一切知らないし、知らされることも無かったようです。土方氏は2段ベッドがおかれた北寮で暮らし、栗原氏は第一校舎（現高等学校）の畳が敷かれた教室で、寝起きしていたそうです。

土方氏は、実際にあの戦争を司令部という場で体験したひとりとして、戦時下の政治や社会や人々を問い直し、自身をも問い合わせておられるのでしょう。体験者と非体験者の感覚の違いを知るためにも、私たちは体験者の話を聞く必要があると思いました。

その後の総会にも40人以上の方の出席がありました。その上に活発な意見や質問が続出し、今後の活動への激励もあり、今

まで経験したことの無い、活気あふれる総会となりました。活発な質疑応答の後、2007年度の活動と会計報告も、2008年度の活動と予算案についても無事承認されました。

最後に残った30人で、テーブルを顔の見えるように並べかえ、お茶とお菓子で1時間、語り合いました。目を開かれるような話や、心打たれる体験が話されて、素晴らしい時間を共有したように嬉しくなりました。最近は見学も体外的な仕事も増え、活動はかなり大変ですが、案内ガイドも増え、会員の皆さんもしっかり支えてくださるので、2008年度も、着実に前進したいと思います。

運営委員 龜岡敦子



講演会後の質問



茶話会



茶話会

総会資料

2007年度活動報告

今回の総会は第20回という記念すべき総会である。地道に自分たちの力量に応じた仕事を淡々とこなしてきた感がある。それ故か、いつの間にか「川崎・横浜平和のための戦争展」は15回を数え、

「戦争遺跡保存全国シンポジウム」は11回を重ねた。

ここで特筆すべきは2007年11月「日吉平和ミュージアム」づくりの提言を慶應義塾常任理事西村氏を通して慶應義塾塾長安西氏に手渡したことである。20年

間培ってきた私たちの意思をはじめてこのような形で慶應義塾に伝えたのである。

2007年度の総会は5月19日藤原記念館大会議室で、白井厚慶大名誉教授の「諸大学における戦没者の追悼」～慶應大学にふさわしい追悼のかたちを考える～と題する講演から始り、議事を滞りなく終了した。

見学会は平日の団体見学は時期的にかたよりがあり、週に何度もガイドすることがあった。毎月第4土曜日の定例見学会は幅広い年齢層の人々に驚きと感銘を与えていた。また、児童・生徒の「調べ学習」や「平和学習」として定着化し、今年度は小学校5校、中学校1校、高校5校、大学1校を案内した。海軍兵学校78期会23名も見学され、連合艦隊通信将校で戦後慶大を卒業された土方貞彦氏や白井厚氏の講演を聞いて帰られた。

2005年より「港北ふるさとサポート事業」に参加、「ガイド養成講座」を開いてきたが、第3回2007年度をもって区の事業からは離れることとなる。この講座の第1回より2名、第2回より3名が見学会のサポート実習を行なっている。第3回では6回の講座終了後「修了証書」を発行、3名が見学会サポートに参加している。今年度の助成金15万円は主としてガイドブック『戦争遺跡を歩く 日吉』の増刷費に使用した。目標にかけた聞き取り調査は箕輪在住の小嶋英佑氏から日吉の空襲について伺い、焼失家屋が明確になりつつある。日吉の丘公園周辺の見学会では地元の方から八十段階段下の谷戸の戦中・戦後の建物等のありようを聞いた。また、大綱小時代の戦争体験も聞くことができた。今後、これらの事業は何らかの方法で継続していく方針である。

8月18~20日第11回「戦争遺跡保存全国シンポジウム」東京大会(一橋大学)には13名が参加した。第1分科会では「日吉台戦争遺跡ガイド養成講座を受講して」と題して運営委員の渡辺清が発表。第2分科会では「神奈川県横浜市日吉台地下壕の調査と方法の概要」と題して千葉毅(慶大大学院)が発表した。

10.31日吉台小学校にて「日吉の戦争遺跡について」説明し、交流をもった。11.17同校「日吉台フェスティバル」を見学。6年生の展示「地下壕と大和」「戦争」「戦争中の人々の暮らし」を見ながら児童の説明を聞き、体育館で劇「戦争中の暮らし」を観賞した。

12月15~16日第15回「川崎・横浜平和のための戦争展」を川崎市平和館で開催。テーマは「戦争遺跡がいま問いかけるもの」～私の街から戦争が見える～。ひとみ座人形劇「9条君の運命」ほか標題のシンポジウムが行なわれた。

今、私達は文化庁の文化財調査報告書の刊行と慶應義塾からの何らかの回答を待ち望んでいる。これからも地道に調査し、見学会を開き、関係部署に働きかけていく所存である。



総会

日吉台地下壕保存の会

- ◆会員数：個人 289名 団体 6。
- ◆定期総会開催：第19回 2007年5月19日。
- ◆運営委員会開催：11回 5月24日～2008年5月8日。
- ◆会報発行：5回 第83号 (6.23) 84 (9.14) 85 (11.14) 86 (08.2.6) 87 (4.17)。
- ◆地下壕見学会：47回 5.12～08.4.26 参加者：2054名 小学生～大学生：約1000名
- ◆港北ふるさとサポート事業：港北区全体会3回 6.30 11.17 08.3.15
日吉の戦争遺跡ガイド養成講座～戦争遺跡を歩いて平和の語り部になろう～ 5回 10.6(当日ヒヨシ・エイジにも参加) 10.20 (10.27 定例会にも参加) 11.10 12.1 08.1.19 終了後新年会。修了証書授与。
『戦争遺跡を歩く 日吉』増刷3000部。聞き取り調査：小嶋英佑氏ほか。
- ◆ブックレットの増刷 2000部：監修白井厚、日吉台地下壕保存の会編『学び・調べ・考えよう フィールドワーク 日吉・帝国海軍大地下壕』 平和文化 2007。
- ◆6.29～7.1「平和のための戦争展 in よこはま」(かながわ県民センター)に出展。
- ◆7.9～14 小さなまちの小さな平和展 展示とミニトーク(大倉山のギャラリーかれん)。
- ◆6.16 特別見学会靖国神社・遊就館 18名。 7.21 特別見学会 登戸研究所 26名。
- ◆7.31「博物館」「平和資料館」構想の検討会。
- ◆第11回戦争遺跡保存全国シンポジウム東京大会(一橋大学) 13名参加
日時：8.18～20 20：フィールドワーク 分科会報告(活動報告記載の通り)
- ◆10.31 日吉台小学校6年生のための「日吉の戦争遺跡について」の説明と交流。
- ◆第15回川崎・横浜平和のための戦争展「戦争遺跡がいま問い合わせるもの」
日時：12.15～16 (14準備) 会場：川崎市平和館
主催：川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会 後援：川崎市 実施団体：日吉台地下壕保存の会、蟹ヶ谷通信隊地下壕保存の会、旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会。
展示：戦争遺跡の写真、実物資料(にせ札・血染めの軍服)、市民の描いた戦争の記憶。
公演・シンポジウム：人形劇「9条君の運命」人形劇団ひとみ座。若者の発表：「いまと歴史と歴史教育」。シンポジウム：「戦争遺跡がいま問い合わせるもの」司会：渡辺賢二、パネリスト：十菱駿武・新井揆博・白井厚・矢澤康祐。
ビデオ上映。紙芝居(満蒙開拓青少年義勇軍とシベリヤ抑留の体験)実演：成田富男。
事前事業：平和のための戦争展実行委員会4回 9.1 10.17 11.12 12.5。
記者会見：12.6。
賛同金・寄付金：総額 197,630円 賛同金を振り込んで下さった方が 64名。多数の方にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げる

2007年度 決算報告

(単位 円)

費目	2007年度予算	2007年度決算	備考
【収入の部】			
会 費	250,000	273,500	現金49,000円、振込み224,500円
見学会資料代	400,000	382,840	内訳別項
図書等頒布	0	88,670	
寄付金等収入	0	41,000	
繰 越 金	807,446	807,446	
計	1,457,446	1,593,456	
【支出の部】			
運 営 費	150,000	207,541	各種会合・打合せ等
事 務 費	70,000	55,967	事務用品費等
印 刷 費	80,000	76,575	会報・資料等
通 信 費	200,000	190,070	会報郵送費
資 料 費	30,000		書籍・資料等
頒布図書購入費	80,000	202,759	
交流・交通費	150,000	139,100	全国集会・各平和展賛助金等
謝 礼	30,000	20,000	講演・学習・調査等
冊子作成費	300,000		
予 備 費	367,446		
計	1,457,446	892,012	
差引残高		701,444	

見学会開催費用内訳

収入の部		支出の部	保険料	202,020
見学会費用	735,000		振込手数料	7,140
			案内経費	143,000
			※資料作成費	382,840
合計	735,000		合計	735,000

※資料作成費は2007年度決算の見学会資料代に計上しています

以上の通り報告します

2008年5月17日

日吉台地下壕保存の会

会 計 亀岡 敦子 印

この報告により収支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

会計監査 熊谷 紀子 印
会計監査 山口 園子 印

2008年度日吉台地下壕保存の会

運営委員・会長・副会長・会計監査・顧問

会長	大西 章						
副会長	新井 摥博	鈴木 順二					
運営委員	岩崎 昭司	上野 美代子	大久保 隆	岡上 そう			
	亀岡 敦子	喜田 美登里	桜井 準也	杉山 誠			
	鈴木 高智	谷藤 基夫	常盤 義和	都倉 武之			
	富澤 慎吾	中沢 正子	中谷 俊吾	林 ちづ			
	古川 晴彦	宮本 順子	茂呂 秀宏	渡辺 清			
会計監査	熊谷 紀子	山口 園子					
顧問	永戸 多喜雄	鮫島 重俊	白井 厚				
	東郷 秀光						

2008年度活動方針

1989年に日吉台地下壕保存の会が発足して、今年で20年になります。この間会員の方々、全国の戦争遺跡保存運動に携わっている方々、日吉地域住民の方々とともに活動を続けることが出来ました。

この20年間の活動を振り返ると小さなことをいくつも積み重ねて活動が継続し活発になってきたことがわかります。

地下壕内の整備が行われ、毎年約50回を数える見学会の開催及び小中学生を含み約2000名の方を地下壕に案内できること。各地の戦争遺跡保存の会とともに戦争遺跡保存全国ネットワークを立ち上げ、夏にシンポジウムを開催し全国の方と一緒に勉強を出来たこと。川崎・横浜平和のための戦争展を毎年開催出来たこと。『戦争遺跡を歩く日吉』・『学び・調べ・考えようフィールドワーク日吉・帝国海軍大地下壕』の2冊のガイドブックの出版できたこと。港北区の後援によりガイド養成講座を開催し、多くのガイドの仲間が増えたこと。また、その活動が評価され、神奈川新聞より神奈川地域社会事業賞を頂きました。

これからはこれらの活動の継続の他に大きな課題として2つのことがあります。1つは文化庁から戦争遺跡として指定を受けることと『日吉平和ミュージアム』の建設があります。

貴重な戦争遺跡としてより広く深く平和を考える場として日吉台地下壕を活用していくと考えています。

そのために以下の活動方針を提案致します。

活動方針

- 日吉平和ミュージアムの建設に向けて努力する。
- 日吉台地下壕及び関連施設の整備・活用方法を考え、その実現に努力する。
- 日吉台地下壕見学会の内容を充実させ、より頻繁に開催する。
- 小・中・高校生のための見学会を開催していく。
- 日吉台地下壕の学術調査・研究及び学習会を開催する。
- 港北区住民の方を始めとする地域の方々と協力して保存運動を進める。
- 慶應義塾・横浜市・県・国への働きかけを地域の方々と連携して行う。
- 全国の戦争遺跡保存運動の会との連携を深め、保存運動を盛り上げていく。
- 運営委員会の活動の充実と強化をはかる。

2008年度 予算 (単位 円)

費 目	2008年度予算	備考
【収入の部】		
会 費	250,000	
見学会資料代	400,000	
図書等頒布	0	
寄付金等収入	0	
繰 越 金	701,444	
合 計	1,351,444	
【支出の部】		
運 営 費	200,000	各種会合・打合せ等
事 務 費	60,000	事務用品費等
印 刷 費	80,000	会報・資料等
通 信 費	200,000	会報郵送費等
資 料 費	30,000	書籍・資料等
頒布図書購入費	80,000	
交流・交通費	150,000	全国集会・各平和展賛助金等
謝 礼	30,000	講演・学習・調査等
冊子作成費	200,000	
予 備 費	321,444	
合 計	1,351,444	

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました

2008年5月24日

日吉台地下壕保存の会

運営委員会

第12回戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知大会のご案内

昨年の東京・国立・一橋大学での大会に引き続き、今年は名古屋大学で戦争遺跡保存全国シンポジウムが行われます。日吉台地下壕保存の会は発足当初からのシンポジウム呼びかけ団体の一つとして毎年、提案、発表を行い、シンポジウムの活動の広がりに努めてきました。今年もこれまでの調査・研究の成果を持って報告を行う予定です。会員はじめ多くの方々のご参加をお願いいたします。

主催 戦争遺跡保存全国ネットワーク
第12回戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知大会実行委員会
会場 名古屋大学 全学教育棟・他
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 地下鉄名城線 名古屋大学1番出口
日程 8月9日(土)
11:00~12:00 会員総会 S30教室
昼食
13:00~17:30 開会行事・全体集会・シンポジウム S30教室
主催者挨拶 全国ネットワーク代表
歓迎挨拶 名古屋大学
愛知大学実行委員会
記念講演「後生に伝えられなければならないこと
—豊川海軍工廠—」
講師 宗田理(そうだ おさむ)さん(作家)
報告「戦争遺跡保存運動の到達点と課題」
大日方悦夫
(戦争遺跡保存全国ネットワーク運営委員)
「沖縄戦集団自決問題」
沖縄平和ネットワーク
「名古屋大学平和憲章と名大9条の会の活動」
名古屋大学9条の会
「豊川海軍工廠の保存運動」
豊川海軍工廠跡地保存を進める会
18:00~20:00 交流会 名古屋大学生協 フレンドリー南部食堂
8月10日(日)
8月10日(日)
9:00~15:30 分科会 提案 10本各
第一分科会 「保存運動の現状と課題」 C33教室
第二分科会 「調査の方法と保存整備の技術」 C34教室
第三分科会 「平和博物館と次世代への継承」 C35教室
16:00~17:00 全体会 閉会行事 S30教室
各分会のまとめ
特別決議
大会アピール
※同時 開催 各地の戦争遺跡パネル展 図書販売
8月11日(月)
9:00~17:00 フィールドワーク
Aコース 名古屋の戦跡を巡る(マイクロバス20名)
旧騎兵連隊本部、名古屋城内、被爆石垣、乃木倉庫(国登録文化財)、歩

兵6連隊碑、旧名古屋造兵廠熱田製造所、堀川被弾堤防、旧愛知航空機永徳工場滑走台、等

Bコース 名古屋の戦跡を巡る（徒歩・地下鉄20名）

城山八幡宮被爆標柱・鳥居、「陸軍」境界石柱、日清戦争第一軍戦死者記念碑、平和公園（陸軍墓地、被爆墓碑）、ピースあいち、乃木將軍石像、梵鐘のない鐘楼、等

Cコース 豊川海軍工廠・豊川の戦跡を巡る（マイクロバス20名）

諏訪墓地慰靈碑、豊川海軍工廠・名大太陽地球環境研究所、陸上自衛隊豊川駐屯地・三河資料館、慰靈碑・豊川稻荷、豊橋陸軍墓地、豊橋空襲慰靈碑、被爆櫓、等

Dコース 半田・知多の戦跡を巡る（マイクロバス20名）

戦災犠牲者追悼平和記念碑・学徒殉難碑、陸海軍合同大演習関連碑、赤煉瓦弾痕建物（カブトビル工場、戦中期・中島飛行機衣料倉庫）（国登録文化財）料亭望州樓地下壕（中島飛行機施設）中島飛行機半田製作所移送用飛行場跡、被爆墓石（亀州共同墓地）美浜町・河和海軍航空隊遺跡跡群、南知多町：回天・震洋基地壕、歩兵第六連隊（名古屋）・日中戦争戦死者群像68基、（山海・岩屋寺中の院）

参加費 シンポジウム・分科会参加者 2000円 1日参加者 1200円
(高校生以下 200円)

交流会会費 4000円 昼食弁当（8／10）予約 800円

フィールドワーク参加費 A・C・Dコース 4000円
Bコース 1000円

参加申し込み

日吉台地下壕保存の会としてまとめて申し込みをいたします。

亀岡敦子：港北区下田町5-20-15 TEL・FAX 045-561-2758
お問い合わせ下さい。

個人で申し込みされる方は締め切りは7月22日（火）です。

案内

戦争遺跡特別見学会のお知らせ

〈YMCA東山荘慶應の鐘・山梨平和ミュージアム〉



〈猿島・覗音崎砲台群〉

1) マイクロバスでめぐる 御殿場東山荘・山梨平和ミュージアム

日吉キャンパスのチャペルに備え付けられるはずであった鐘は、戦中戦後の大波をくぐりぬけ、いまYMCAの故郷ともいえる東山荘に「慶應の鐘」として置かれています。鐘の見学後、甲府市の山梨大学構内に残る煉瓦造り糧秣庫を見て、石橋湛山記念館でもある、山梨平和ミュージアムに行きます。山梨で戦跡保存に取り組んでいる方々との交流も予定しています。最後に山梨県立博物館も見学したいのですが、交通事情で取りやめになるかもしれません。昼食場所は、その日の道路状況で変わります。

日 時 2008年7月27日（日）午前8時～午後7時（予定）

(10)

2008年6月28日(土) 第88号

コース	日吉-YMCA 東山荘(御殿場) - 甲府連隊煉瓦造り糧秣庫(甲府) - 山梨平和ミュージアム・石橋湛山記念館(甲府) - 山梨県立博物館(笛吹) - 一日吉新井 摥博 日吉台地下壕保存の会
講師	戦争遺跡保存全国ネット運営委員 浅川 保 山梨平和ミュージアム館長
募集人数	27人(先着順 定員になり次第締め切ります)
参加費	7000円 申込まれた方には振込用紙を送ります。(交通費、入館料、保険料他 昼食代は含まれません)
集合場所	日吉駅改札前
参加申込締め切り	7月19日(土)

2) 新井さんと歩く神奈川の戦争遺跡

「猿島・観音崎砲台群・戦没船員の碑」

神奈川には多くの戦争遺跡が残されています。当会副会長の新井撥博は、神奈川の戦跡研究の第一人者です。身近な戦跡を訪ねる、歩きやすい散策コースです。参加人数の制限はありません。



戦没船員の碑

日 時	2008年9月21日(日)午前9時~16時 雨天中止です。
コース	中止の場合は28日(日)に延ばします 京急横須賀中央-猿島-観音崎砲台群- 戦没船員の碑(現地解散)
講 師	新井 撥博 同上
参加費	500円 資料代と保険料
持ち物	当日集めます(交通費などは自己負担) お弁当(昼食は戸外でとりますので必ず 弁当と飲み物をお持ちください)
集合場所	京急横須賀中央駅改札前(改札は一箇所です)
参加申込締め切り	9月13日(土)

○参加申し込みは、葉書かファクシミリでお願いします。参加者全員の住所氏名と代表者の電話番号をお書きください。保険は100円程度のリクリエーション保険をかけます。

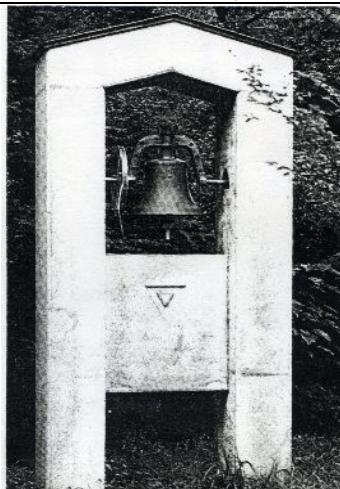
○問合せ先 新井撥博(044-766-7859) 亀岡敦子(045-561-2758)

申込み先 223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 亀岡敦子(電&F同上)

案内

■登戸研究所見学会のお知らせ

現在、明治大学では生田キャンパスで(仮称)旧陸軍登戸研究所資料館の設置計画が進んでいます。登戸研究所は電波兵器や諜報用機材や偽札、毒物・生物兵器、風船爆弾などの研究などを行っていた、当時最高機密の施設でした。まだ登戸研究所の遺構をご覧にならない方のために見学会を計画しました。暑い時期になりますが、フィールドワークを通じ、具体的な研究の内容などを説明したいと思います。興味のある方の参加をお待ちしています。なお、明治大学は大学主催の第3回の見学会・講演会も計画中ですので、今後もニュースに注目していただければと思います。



東山荘「慶應の鐘」

日 時：7月21日（月・祝） 14時から2時間程度
 集合場所：生田駅改札前または明治大学生田キャンパス正門
 集合時間：生田駅：13時45分、正門：14時
 ガイド：石橋星志（明治大学大学院生）
 資料費：500円
 定員：15名（予定）
 必ず前々日までに、申し込みを石橋（YIU69195@nifty.com または090-3450-4621）までお願いします。

報告

「2008年度平和のための戦争展 in よこはま」

2000人が来場

1945年5月29日の横浜大空襲から63年、“見つめよう！語り合おう！戦争の過去といま”をテーマに今年で13回目を迎える「平和のための戦争展 in よこはま」が5月30日から6月1日までかながわ県民ホールセンターで開催されました。新聞社等がプロセスも含め取材し、記事にしてくれたこともあり、3日間で2000人の参加がありました。

日吉台地下壕保存の会も毎年他の市民グループと共にこのイベントに参加してきました。今年は地下壕や神奈川県の戦争遺跡の紹介に加えて、日吉の



日吉の戦災地図

戦災地図も展示しました。これは保存の会が行っている聞き取り調査の成果を地図にしたもので、日吉駅前など、まだ未調査の部分がありますが、それでも日吉のまちの1945年4月、5月の空襲の被害とやはり海軍のいた丘周辺が狙われた様子がよくわかります。

今回は地下壕ガイドのメンバーが多数展示解説や書籍販売に入って下さいました。講演会などにも会員の方が来られてにぎやかでした。（喜田）



朝日新聞 2008.5.26

連載

第2回 日吉の丘の青春群像

一小嶋萬助・上原良司・宅島徳光・愛新覚羅慧生について一

V S 亀岡敦子

○宅島徳光(1921年10月3日～1945年4月9日)

宅島徳光は、昭和13年4月慶應義塾大学法学部予科に入学し、16年3月までの3年間を

日吉で学んだ。18年9月法学部政治学科を卒業後、すぐに第13期海軍飛行予備学生として三重海軍航空隊に入り、パイロット養成の厳しい訓練をうけた。後輩からも大変に慕われた人物であったらしい。彼も、上原と同じく、敗戦の年の4月9日、一式陸攻機長として、金華山沖で消息をたち殉職した。海軍中尉、23歳6月であった。宅嶋の思想も、岩波文庫の『新版第二集 きけわだつみのこえ』で知ることができる。

宅嶋は、福岡市の裕福な実業家の8人兄弟の長男として生まれ、何不自由ない学生生活を送った。彼も予科時代から軍隊時代にも日記や手紙を沢山残している。18歳の若者が、このように哲学・美学・外国文学・絵画・音楽にまで広く深く知識を持ち、思索を深めていることは、驚嘆にあたいする。そして昭和15年2月11日の日記には、「私どもの日常の行為には、真と美と生が流れていなくてはならない。就中美は大切な要素でなくてはならない。」と書かれている。しかし、この年の2月2日、衆議院議員斎藤隆夫の反軍演説が問題化され、9月には日独伊三国同盟調印、10月大政翼賛会の発会式が行われた。すでに昭和13年、陸軍大将荒木貞夫陸軍大臣が文部大臣に就任し、大学の自治を否定し、東京帝国大学総長には、あろうことか海軍中将平賀讓が就任し、肅学の嵐が吹き荒れた。翌14年には大学での軍事教練が義務化され、学園の戦時色は日増しに強まったにちがいない。

まさに桃源郷のような日吉キャンパスと例外ではなかった。当然宅嶋も教練を受けたであろうが、それらしい記述はほとんど見当たらない。恋する女性への想いを記し、詩や和歌を詠み、家族に宛てて、情愛あふれる手紙を書いた。宅嶋は、日本ほど安価な感情主義者の多い国はないだろう、と断じ、それは為政者にとって好都合と見抜き、国家は、各人の幸福追求を便ならしむる一手段として人が作ったものである、と真実にせまる。

このような明確な思想をもったロマンティストが、その対極にある軍隊で、どのように精神的戦いをしなければならなかつたか、上原良司と多くの共通点があつたことと思われる。それは、二人の育った裕福で開明な家庭環境、自治の精神の旧制中学校、そして慶應大学の学問とここで出会つた人々などが、自由に物を考えるこのような若者を育て上げたと思われる。そして、予科時代をすごした日吉の丘も、なんらかの影響があつたこととわたしは思う。宅嶋に関しても、上原同様関心をもち、研究する人は多い。父が17回忌に私家本としてだした遺稿集『くちなしの花 ある戦没学徒の手記』は、その後光人社から出版された。

○愛新覚羅慧生(1938年2月26日~1957年12月10日)

日吉駅の西側、閑静な住宅のなかに、満州國皇帝の弟溥傑と結婚し、数奇な生涯をおくつた嵯峨侯爵家の令嬢浩の実家がある。東京赤坂の屋敷が空襲にあってからは、疎開していた日吉の別邸に住いを移した。溥傑と浩との結婚は、明らかな政治的結婚であったが、幸いなことに見合いをしたふたりは、互いに惹かれあい、昭和12年軍人会館(現九段会館)で結婚式をあげ、翌13年満州國新京で、長女慧生が生まれ、物分かりのよい可愛い小さな慧生は、孤独な皇帝溥儀にもたいそう可愛がられたという。2年後次女嬌生が東京で生まれ、家族4人は東京で、重苦しい時代の中でも愛情にみちた幸せな日々を過ごしていた。20年長女慧生を日吉の嵯峨家にあずけて、一家は新京に戻つたが、敗戦後の歴史に翻弄された家族の物語は、繰り返しドラマ化されたり、ドキュメンタリーフィルムとしても、何度も取り上げられている。

日本の華族と中国の王家の血をひく慧生は、7歳から、昭和32年12月10日に天城山中で、わずか19歳10月で命をおとすまでのおよそ12年間を、日吉で暮らした。大学の同級生とのピストルによる心中であるということが、定説となっているが、捜索を手伝い、実際に遺体を見たという今は故人となつた日吉の古老によると、ふたりの遺体は離れていて、心中のようには思えなかつたそうだ。母浩も著書『流転の王妃の昭和史』のなかで、心中説をはつきり否定している。真実はいまだに分からぬけれど、真剣に日中の架け橋になることを願い、中国語を学び、父の釈放を願う少女慧生の手紙が、時の首相周恩来を動かし、父の釈放を早めたのは、事実であるらしい。実際に父と対面したのは母に抱かれた遺骨であったが。日吉には、まだ東横線にのって学習院まで通う彼女の姿を覚えている人は少なくない。そして、愛新覚羅溥傑夫妻の晩年は、地元の友人たちと実に細やかな交流がなされ、書家としても有名

な溥傑の書とともに、楽しそうな笑顔の写真が数多く残されている。慧生が、日吉の坂道をスキンップしていたと話してくれた人もいた。雪の日に、子どもたちが遊ぶ様子を木戸から眺めていたのを憶えているという。家族そろって暮らした時期は短かったけれど、きっと日吉での生活は、幸せだったにちがいない。満州国と愛新覚羅家に関する、研究と書物はおおいけれど、あまりにドラマチックなので、興味本位に陥りやすい。慧生の死の真相も、そろそろ解明されるべきときではなかろうか。

そして私は

私は、日吉キャンパスに残る海軍の地下壕保存に関わる中で、この4人の若者に出会った。その人間性を知るほどに、彼らの「死」が悔しくてならない。小嶋萬助が文字通り命を賭して訴えた軍の改革への願いは、彼の遺志とは正反対の方向に働き、特攻作戦にまで行き着いてしまう。そして皮肉にも、日吉の丘で青春を過ごした多くの若者の命を奪う結果となってしまった。しかし、少なくとも上原と宅嶋は、学生時代から本質を見抜く力を養い、権力者・為政者・軍部・ジャーナリズムに対して、激しい批判を書き残した。彼らは唯々諾々と運命従った訳でも、自ら熱狂的な愛国者となった訳でもなく、最期まで知性と品性を磨き、戦争という不条理に対してできうる限りの抵抗を続けた。日吉の緑の丘に立つとき、何百人何千人の二度と戻らぬ若者の瞳を、忘れないようにしたいと思う。

連載

地下壕ガイドから一言

第2回 戦死した私の二人のおじさん

山田 謙

私には戦死したおじさんが二人います。私が子どものころ仏壇の横には、二人の写真がかざられていました。一人はりりしい軍服姿の金治郎おじさん。もう一人はおっとりした顔の背広姿の耕造おじさん。

金治郎おじさんは1937年12月の南京攻略戦で中国軍の迫撃砲で負傷し、南京市東方の鎮江野戦病院で破傷風にかかり戦病死しました。1938年2月6日、25歳でした。

耕造おじさんは中学のとき父親に陸軍幼年学校にいくことをすすめられたのですが、「自分は軍人より商人がむいていい」と言って兄の金治郎と同じ八幡商業高校（滋賀県）にいました。1945年3月24日に中国の武漢市南方で、米軍機の爆撃で手足をふきとばされて亡くなりました。兵隊だったわけではなく、材木の買い付けを陸軍のためにしていました。そのため軍属として戦死扱いになったようです。23歳でした。私の家には金治郎おじさんの血染めの軍服や従軍日記、耕造おじさんの中高時代の日記が残っています。

私が二人のおじさんの戦死に強い関心を持つようになったのは、実は日吉台のガイドを始めるようになったからです。日吉台の海軍壕を見ると、当時の大日本帝国の権力者たちがどのようにあの戦争をひきおこし、おしえすめ、破滅していったのかと考えずにはいられません。彼らの駒として使われ、命を奪われた人たちの中に私のおじさん二人もいたわけです。金治郎おじさんの所属していた第16師団は南京占領一番乗りの部隊で、師団長は「捕虜はとるな」（=殺せ）と命じたそうです。その第16師団はフィリピンのレイテ島で1944年に全滅しました。

敵も味方も殺しつくす戦争の愚かしさを二度とくりかえさないように、日吉台の戦争遺跡のかわりに私たちガイド人が語らなければならぬと思います。新米のガイド一年生でまだ多くは語れませんが、保存の会のみなさんや見学者のみなさんと共に、学びながら語り、語りながら学んでいきたいと思います。



山田金治郎伍長の血染めの軍服

活動の記録 (2008年 4月～6月)

- 4/17 運営委員会 会報87号発送 (慶應高校物理教室)
 4/24 地下壕見学会 世田谷線と世田谷をよくする会 27名
 4/26 定例見学会 60名
 5/8 運営委員会
 5/14 地下壕見学会 久末福寿会 33名
 横浜・川崎平和のための戦争展実行委員会 (法政第二高校)
 5/15 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会 (かながわ県民ポートセンター)
 5/21 地下壕見学会 横浜建設労働組合主婦の会 27名
 5/24 定例見学会 51名
 日吉台地下壕保存の会定期総会 (藤山記念館)
 5/29 地下壕見学会 セカンドライフレクラブ 33名
 平和のための戦争展 in よこはま 会場準備 (かながわ県民ポートセンター)
 5/30～6/1 平和のための戦争展 in よこはま 開催 (かながわ県民ポートセンター)
 6/3 地下壕見学会 新現役ネット 34名
 6/11 運営委員会 (日吉地区センター)
 6/14 定例見学会 27名
 6/20 地下壕見学会 大阪国際理解教育センター 50名
 6/25 地下壕見学会 鎌倉平和グループはまゆうの会 15名
 地下壕見学会 慶應大学近現代考古学授業 20名
 横浜・川崎平和のための戦争展実行委員会 (法政第二高校)

予定

6/28 運営委員会 会報88号発送 (慶應高校物理教室)
 定例見学会 6/28(土) 7/26(土) 8/20(水) 8/30(土)
 ☆8月は夏休みに見学希望の方も多いと思いますので、8月20日(水)を加えました。
 小中高生のみなさんをお待ちしています。(見学できるのは小学校4年生以上です。)

見学会ガイドポート参加のご連絡は見学会窓口まで。お待ちしています。

定例見学会は毎月第4土曜日に行ってています。なお日程が変わる場合もありますので必ず見学窓口に申し込んでください。

(見学申込先 TEL&FAX 045-562-0443 喜田)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758

(見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443

ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/> (新アドレス)

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会運営委員会